

みなさまの寄附金を活用して 大阪を元気にする8事業を支援しました！

～令和6年度 大阪市市民活動推進助成事業～

区政推進基金(市民活動支援型)への寄附金を活用して、令和6年度は8つの事業に対して助成を行いました。

事業を実施している団体より、事業報告が寄せられましたのでご紹介いたします。

＜令和6年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日)の寄附について＞

寄附金額 : 22,917,992円

★寄附者の皆さま★

【クリック募金協賛企業】(令和7年6月20日現在・五十音順)

愛眼株式会社、アスト株式会社、大阪シティ信用金庫、大阪信用金庫、株式会社クーバル、クジラ株式会社、株式会社ココロ、株式会社五大、センコー株式会社、株式会社日伝、株式会社ハヤシコーポレーション、株式会社一二三工業所、株式会社フォーシックス、株式会社宮田運輸

「クリック募金」とは、事業の趣旨にご賛同いただいた協賛企業等のバナーをクリックすることで、協賛企業等からクリック数に応じた金額を大阪市にご寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するシステムです。

【大阪WAONによるご寄附いただいた企業】

イオンリテール株式会社、株式会社光洋

「大阪WAON」とは、イオングループの企業が発行する、地域貢献型のご当地 WAON(電子マネー)カードの大阪市版です。

このカードを利用いただくことで、その利用金額の一部を大阪市に寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するしくみです。

【その他令和6年度にご寄附いただいた団体・企業等】

20 者

グローバルユース防災サミット 2024

グローバルユース防災サミット実行委員会

事業HP等のURL : <https://youthbosai2025.net/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

- ▶次代を担うユース（10代～20代の若者）が、防災を通じて災害に強い大阪の実現をめざす社会貢献活動。
- ▶大阪の災害の歴史と教訓を学び、防災の専門家やプロフェッショナルとの対話と協働を通じて、大阪の防災力向上をボトムアップ式に推進。
- ▶地元で開催される万博の場を活用し、日本・世界のゲストと共に、国際都市大阪にふさわしい災害に強い未来社会の実現の礎となるグローバルな共助を構築。

【事業の紹介】

総活動数 57 件、のべ 64 日（うち 3 件は台風による警報発令のため中止）
ユース 1,327 名、一般 585 名、合計 1,912 名＋従業者 154 名

1. 大阪に根ざした防災学習会（大阪の災害の歴史や防災の現状を学ぶスタディツアー）活動数 12 件、のべ 15 日（うち 1 件は台風による警報発令のため中止）ユース 243 名、一般 82 名、合計 325 名＋従業者 74 名

2. 地域に届ける防災活動（防災学習で身につけた知識を活かした地域防災活動）活動数 9 件、のべ 15 日（うち 2 件は台風による警報発令のため中止）ユース 479、一般 398、合計 877 名＋従業者 59 名

3. 留学生・外国ルーツの子との交流、防災学習（多文化や多様性の視点による自助共助の促進）活動数 2 件、のべ 2 日、ユース 113 名、一般 143 名、合計 256 名＋従業者 8 名

4. 活動成果の発信、市民への還元、新たな仲間との出会いの場の創出（グローバルユース防災サミット、次世代 BOSAI フォーラムの開催）活動数 7 件、のべ 5 日、ユース 128 名、一般 107 名、合計 235 名＋従業者 18 名

ほかに被災地支援活動（能登半島、マウイ島ラハイナ、トルコ）と ATC グリーンエコプラザでの活動パネル常設展示を行いました。

5. 新たな共創を生み出すチャレンジ（防災ポスターコンテストや防災ビジネスプランコンテストへの応募）活動数 3 件、のべ 3 日、ユース 9 名、一般 0 名、合計 9 名＋従業者 2 名

6. メンバー間の連帯・連携を促すコミュニティ運営（多文化・多様性点による自助共助の促進）活動数 24 件、のべ 24 日、ユース 228 名、一般 34 名、合計 262 名＋従業者 45 名



水上消防署見学(6/1)



小学校いきいき防災講座(8/1,5,19)



グローバルユース防災サミット(10/28)



次世代 BOSAI フォーラム(2/2)

【事業実施の成果】

1. ユースメンバーらの声

(1)自分たちの活動を知ってくれる人たちから「一緒にやりたい」と言ってもらえて、もっとやる気になった（小学生）

(2)これから自分たちが大人になっていく中で災害はもっと恐ろしいものになるかもしれないと思って活動している。世界の人との交流の中ですでに深刻な状況になっている国もあることを知った。（中学生）

(3)中学生の時に防災に出会って深く学ぶことで自分の世界が広がった。大学は防災関係に進もうと決めた。（高校生）

(4)幅広い年代のユースが防災というテーマのもとに集まる組織は他にない。学校や地域を超えてつながることでより多くの成果を手にしてきた彼らの姿がさらに多くの仲間を惹きつける力になっていることを頼もしく感じています。（プロボノ）

2. 「スピノフ（派生）ユニット」の誕生。

(1)「OSAKANOTOMODACHI」（自分たちの真ん中に能登がある）
能登半島地震で自分たちと同年代の子たちが受験や卒業を前に不安な日々を送っていることを知り、募金活動を皮切りに活動を開始。3月には被災中学生6名を大阪に受け入れる「レスパイト」を企画し、新たな門出を祝いました。9月には災害ボランティアとして瓦礫撤去や仮設住宅への引っ越しの手伝いなどを行い、大災害で多くの大切なものを失った人々の想いに寄り添い、災害の教訓を収集しました。活動の様子はCOMVO12月号に掲載されました。

<https://youthbosai2025.net/974/news/>

(2)「team.カランコエ」（花言葉は「あなたを守る」）

当会の初期メンバーの小学生三姉妹が先輩たちの活躍する姿に奮起して自分たちのユニットを結成。防災紙芝居コンテストでの入賞や友達を巻き込んだ防災活動など、ユースメンバーの妹的な存在として会を盛り上げてくれています。

【今後の展望と課題】

2021年の発足以来、活動するユースメンバーの人数や学校数が徐々に増加し、2024年度末の時点で小学生から大学生まで80名を超えるメンバーが活動する組織に育っています。学校や地域を超えて防災に取り組むユースが連携、連動する当会のような組織は類例がなく、防災研究者や教育関係者、メディア関係者から注目していただくことが増えました。また、この間、国内外で活動するユース防災人材との交流や相互理解を通して、ユース一人ひとりが自分たちが暮らす地域の防災から日本各地、世界各国を見渡す広い視野を身につけ、文化や社会の多様性理解の視点から防災を学び、自らが発信者として活躍する機会が大きく広がりました。

設立以来の目標であった「万博での防災サミットの開催」が今年5月に実現し、この4年間の活動の集大成として2025年度は「防災世界地図」の完成に向けて一丸となり取り組んでいます。



能登半島地震被災地支援活動(9/13-15)



「防災世界地図」ワークショップ(3/8)



ATC グリーンエコプラザ常設展示(通年)

困難を抱える高校生を対象としたプログラミング学習・キャリア支援事業

認定 NPO 法人 CLACK

事業HP等のURL : <https://clack.ne.jp/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

日本の子どものうち 9 人に 1 人が相対的貧困にあるという調査報告があり、家庭環境によって様々な知識、経験、学習機会等に格差が生まれています。また、義務教育課程でない高校生は将来を見据える重要な時期を迎えるにも関わらず、支援が少ない現状があります。

当団体では、困難を抱える高校生を対象に、就労につながりやすい IT スキルを身に着けると同時に、自己肯定感などの社会で暮らす基盤になる力を育むことを目的としています。本事業を通じて、プログラミングスキルの獲得、キャリア教育の無料提供による子どもの経済的・精神的自立と、貧困の連鎖を解消することを目指します。

【事業の紹介】（開催日、場所、参加者数など）

- 参加対象：生活困窮、ひとり親、不登校、いじめを受けた経験、外国ルーツ、発達障害といった経済的理由や様々な環境要因で困難を抱える高校生です

- 開催日程：毎週土曜日 14:00-16:30（4 月～6 月、8 月～10 月、12 月～2 月）

- 開催場所：大阪市都島区京橋 QUINT BRIDGE

- 活動内容：プログラミング学習およびキャリア支援を行う教室「Tech Runway+」を実施。教室は週 1 回×3 ヶ月間を 1 タームとし、3 カ月で Web サイト、ゲームアプリ等の何らかの制作物完成を目指す。同時に、お金・生活・進学について学ぶキャリア支援も実施します

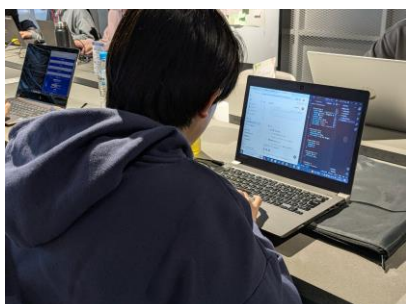
- 参加者数（延べ人数）

4 月～6 月の実施：96 人

8 月～10 月の実施：46 人

12 月～2 月の実施：105 人

- 実施風景



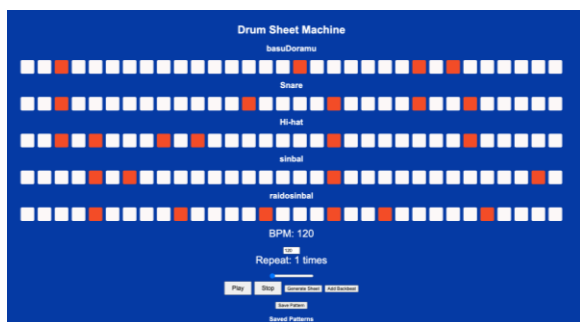
【事業実施の成果】

1. 参加者の声（アンケートより抜粋）

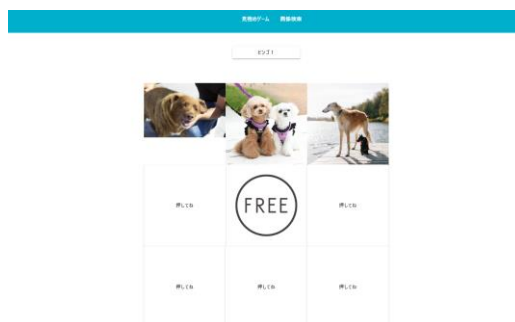
- ・通信制高校に通っていて、アルバイト以外に意欲的に活動しているものごとがなく、何かやってみたいと思った。また、将来の就職にむけて、PCの基礎知識があるといいのではないかと思った。
- ・相談などに対して親身に寄り添ってくれた。自分ひとりではできなかったことも、エンジニアさんのおかげで進めることができた
- ・できない、わからないということがわかったというのも立派な進捗であるということ辛抱強く面倒なコードを書くこと。コードの仕組みをある程度理解できるようになった
- ・何か将来に使える、新しい知識が欲しくてTR+に参加しました。今回は、Python という新しい言語に取り組んでみました。基本は、JS と同じルールだけど、インデックスやコロンなど独自のルールを学びました。初めからコードを全て作ったわけではないですが、ロジックを知ることができて、面白かったです。

2. 参加者の制作した成果物

- (1) ドラムマシーン。Web サイトでドラムのリズムパターンを再現できるサイトです
- (2) ビンゴの判定ゲーム。自動で取得した画像を使ってビンゴを作成するゲームです



(1)：ドラムマシーン



(2) ビンゴの判定ゲーム

【今後の展望と課題】

1. 2024 年度の課題

参加者数が計画時の目標値より下回った。理由としては、これまでよりも「IT を進路に選びたい意思があること」などの参加条件を厳格化したため、申込数が減少しました。ただし、参加者のうち「HP 制作やゲームやアプリなどの最終成果物まで作成できる割合が 90%」という項目に関しては概ね達成しており、参加した高校生はオリジナルの作品を完成させ、成果発表会でのプレゼンテーションまで実施できました。

2. 2025 年度の実施

上述の原因分析に関しては、生徒に説明する参加条件の見直しを行います。また、団体として分析している課題に加え高校生にもヒアリングした所、家庭環境から教室に通うまでの交通費の捻出が難しいことが分かったため、庭環境・困難属性にあわせて、教室に通う交通費を支給します。

障害がある子供もない子供も一緒に遊べる、
またそういった子供をもつ親もそうでない子供を持つ親も楽しめる“居場所”作り

NPO法人サードプレイス

事業HP等のURL：

https://www.instagram.com/thirdplace_npo/

<https://thirdplace-npo.com/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

配慮が必要な子供とそうでない子供が一緒に空間にいて、一緒に遊ぶことで、障害などの理解が進み、配慮が必要な子供の居場所にもなります。また、そこに、親（特に母親）の居場所を兼ねることで、親の理解も進み、学校や放課後の子供のコミュニティだけではなく、家庭内でのインクルーシブ教育も推進できます。また、親の居場所は、育児に関する情報交換を行い、育児軽減のための支援にもつながります（特に配慮が必要な子供をもつ親の育児負担の軽減を目指します）。



【事業の紹介】

毎月、月二回（第二、第三水曜）に中央区にあります中大江校下センターにて、居場所支援を開催いたしました。宿題補助、イベント開催が中心となっております。

2024 年度開催

回数 計 16 回

参加者数 計 562

ボランティア数 計 51 人

■参加イベント

かがくじっけん

バルーンアート

消しゴムハンコスタンプ

スライム作り

コマ、トンボを作ろう

デジタル遊び

救急車体験、救命体験

コマ、トンボを作ろう

【事業実施の成果】（参加者の声、市民や寄附者にアピールしたいことなど）

保護者さんからは、「このエリアに居場所がなかったので助かっている」、「子ども達が楽しみにしている」といった、“ぱぶすぺ”が**地域に知られる存在**になりました。

またボランティアで参加してくださってる方々からも、「こどもと触れあうのが楽しい」、「子どもの居場所作りに参加できて嬉しい」といった声をいただくことができています。

子ども達からも毎回遊びにきてくれる子やイベントを楽しみにしてくれる子、多くのお子さん達がぱぶすぺに参加してくれました。**ぱぶすぺという言葉が子ども達の中で認識されたことも大きい一歩**でした。

この一年を通し、大きな実績といたしましては、**ぱぶすぺが地域に受け入れられたことが一番で、地域に知られる存在となりました。**

今年度は、下記に記した様々な課題がありますが、そこを解消し、さらなる発展を目指していきたいと思っております。



【今後の展望と課題】

- ・常設場所を確保したが、周知がまた最初からになってしまった。その周知をしていく必要性が求められる→イベントの開催、チラシ再配布、大阪市と連携して告知を進める

- ・“インクルーシブ”な居場所支援が課題となっている。インクルーシブと謳っており、大きな意味のインクルーシブにはなっているが、多様性、他学年との交流など、本来の目的の障害という部分ではハードルが高く、どのように解消していくべきかがこれからの課題となる。

- ・人員不足をどう解消するか。ボランティアのかたは来てくださるようになりましたが、責任をもって主でやってくださる方が予想より見つからず、人不足を解消する必要性がある。

- ・地域コミュニティとの連携

本人・家族サポート認知症相談

特定非営利法人

認知症の人とみんなのサポートセンター

事業HP等のURL：[本人・家族サポート相談 | 縁活](#)



助成額：417,000 円

【事業の目的】

- ・若年性認知症の人は、就労支援や経済的支援など特有の課題があります。また、高齢の認知症には少ない意味性認知症などの原因疾患もあり、支援経験や専門的知識が必要なため、地域包括支援センターや認知症初期集中支援チームだけでは支援が困難な相談にも対応します。
- ・診断だけでなく、診断後早期に支援につながるようにすることにより、本人や家族がエンパワメントすることができ、本人の力を活かすことができるようにします。
- ・高齢の認知症の人々を介護している世代でビジネスケアラーの人も、相談の機会を失わないように、天王寺の商業施設であるハルカスで相談を定期的に行うことにより、受診や買い物のついでに相談しやすい機会とします。

【事業の紹介】

認知症の本人や家族が気軽に認知症の相談をすることができるように、ハルカスの縁活スペース(市民に貸し出ししている場所)7階において、1か月に1回、相談会を行います。

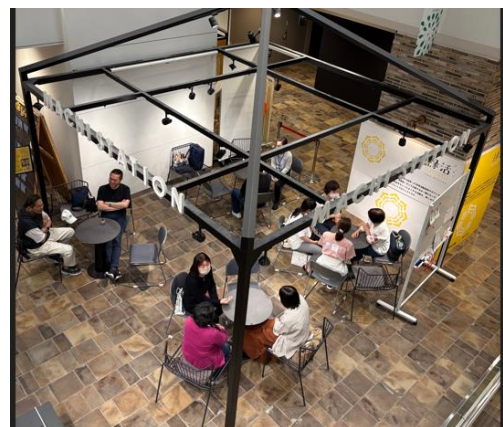
認知症の診断を行っている大阪公立大学医学部附属病院や弘済院附属病院の神経内科や精神科、認知症初期集中支援チームと連携し、相談を行います。特に若年性認知症の人や家族等、制度利用が難しい方や、仕事と治療の両立支援を望まれる方などの支援を中心に行います。

- ・相談会の実施：月1回第3金曜日13時30分～16時30分に、ハルカス7階街ステーションにて継続開催しました。
- ・14時～15時は、認知症の本人と家族が分かれ、本人、家族のピアサポーターがそれぞれのグループに入り、ピアカウンセリングを行いました。
- ・個別相談も必要時行いました。
- ・広報：ハルカスの縁活ホームページ、パンフレットに原稿を提出し、掲載してもらいました。



【事業実施の成果】

- ・専門職が話を聴くだけでなく、同じ立場の人（本人・家族）が話し合うことで、お互いが支え合っていることがわかりました。
- ・診断を受けた本人が、同じ病気の当事者に話すことによって、次の当事者活動に参加することができるようになりました。
- ・認知症の本人が、相談者の本人に話すことによって、お互いが記憶障害があるからこそ、何度も同じ話を繰り返しすることで、納得できるような場面がありました。
- ・看取りを終えた家族は家族相談員として関わることで、自分の経験を活かせる満足感を得、介護中の家族は経験者に話すことで、共感できるアドバイスが得られているようでした。
- ・介護中の家族は、本人のサービス利用や入所、症状の進行について悩んだ時に、同じ悩みを持ったことがある先輩に話をするによって、自分の決断を後押しされることがありました。
- ・60代の娘の立場で親を介護している人たちは、既存の高齢者の家族会には参加しにくく、相談できるところがないことがわかりました。若年性認知症の夫を看取り、親を介護している人が、同じ立場の先輩として話すグループが生まれました。



【今後の展望と課題】

今後は日本認知症ケア学会の助成金を受けます。これまで通り毎月第3金曜日の午後に、あべのハルカス7階の街ステーションで、令和7年4月から相談活動を継続しています。

当事者同士のピアサポートの場として、看取りが終わった介護家族が、次の相談相手となれるように、人をつないでいきたいと思っています。

また、認知症の本人自身も、他の本人のピアサポートが出来るようにサポートしていきたいと思っています。

引きこもりからの解放！！精神障害者のための回復コンサート

特定非営利活動法人

ジェイズ・マス・クワイア

事業HP等のURL：<https://npojmc.com/activity/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

私たちは精神障害者との出会いにより「少しでも世の中から鬱病など精神の痛みをもつ人々の苦しみを解消したい」という思いから、法人を設立しました。

コロナ禍以降、引きこもり者の数は増加し、家族関係の悪化を招く大きな要因となっています。それは数字にも表れており、2023年の内閣府の調査では、自宅に半年以上閉じこもっている「引きこもり者」が全国で146万人以上に達していることが発表されました。また現在引きこもり者の高齢化や長期化が進み、家族関係の悪化を招く要因になっています。

このような状況を改善するため、音楽を通じた地域の人々の豊かな心を育む文化、芸術活動により、精神障害者の引きこもりからの解放と心の回復を図ること。

また障害者家族会の参加による家族の関係の回復、そして自殺者数の減少を目指すことが私たちの今回の事業の目的です。

【事業の紹介】

2024年4月より大阪市東住吉区田辺1-5-26「Gospel House」にて、障害者、児童、また一般の人々も参加し定期音楽交流会を開催しました。

またその交流会での音楽練習を発表する場でもあるコンサートは「家族の絆 クリスマスコンサート Vol.2」として、2024年12月7日（土）大阪市平野区平野南3丁目11-53 平野区民ホールにて開催しました。

音楽交流会には延べ60名以上の精神障害者が参加。一般参加者のトータルは73名でした。

またコンサートの参加者総数は214名、特に今回の事業目的である、引きこもりの精神障害者が11名参加してくださり、私たちの当初の目標人数に達しました。



【事業実施の成果】

○参加者からの声：今年は定期交流会から家族で参加させていただけたことをとても嬉しく思っています。

またコンサートでは音楽に参加させていただいたことだけでなく、親子整体などもあり、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。このような素敵なイベントがずっと続くことを願っております。ありがとうございました。

精神障害当事者（東浦さん）：交流会に参加するだけでも楽しく、生きて行く力になりました。NPO 法人ジェイズマスクワイアのメンバーの皆さんにも優しくしていただき、励みになりました。またコンサートではダンスチームと一緒に体を動かすことが出来て、ストレス解消にもなりました。引きこもりの自分が外に出て行くことが出来たことを感謝しています。

市民や寄付者様に対して：依然として減少しない引きこもり者の数。また物価高騰などによって、生活が苦しくなる家庭や個人が増えています。それによって親子間、親族間の関係が悪化することもあるのでは？と思わされます。今回は特にダンスの出し物として、イベントへの子供たちの参加が多くなったことにより、大人と子供の交流の機会が増え、多くの人に心の安らぎを感じてもらえたと思っています。さらに約20台の車椅子で参加して下さった障害者の皆さんが、会場いっぱいに元気をもたらししてくださいました。このように引きこもりを解消するために集まった市民の皆様のご協力により、本当の意味でのバリアフリーを実現することが出来たと感じております



【今後の展望と課題】

2025年12月6日のコンサートを着地点とし、2025年4月より定期交流会での歌練習をします。その際コンサートに向けたオリジナル曲を、障害者が作った詩を用いて当法人メンバーが作曲。そのオリジナル曲をコンサートのテーマソングとする。尚作曲は当法人代表理事の公山が担当し、参加者に指導し交流会やコンサートをより音楽性の高い有意義なものにして行きます。

更に地域の文化芸術活動をされている団体と連携し、大人だけでなく児童もイベントに親子で参加してもらう方針です。

そして私たちの目標、また掲げるスローガン「家族の絆」を、さらに地域に広げて行く所存です。

また今年の課題として、昨年よりも多くの引きこもり者の参加を目指すこと。

イベントに12名以上の障害者、引きこもり者を参加してもらうことを課題解決目標とします。

子どもの「自分らしさ」への気づき・伸長を促す、 外部プロフェッショナル人材との協働モデル構築事業

NPO法人 JAE

事業HP等のURL : <https://jae.or.jp/>



助成額：783,000 円

【事業の目的】

子ども一人ひとりの「長所」や「自分らしさ」への気づきを促すキャリア教育を通じて、「自他を尊重する態度」や「自分らしい生き方を実現していく力」を育むため、「らしさ発見プログラム」という名称で、2年間にわたり学校現場とキャリアコンサルタントとの協働モデル構築に取り組んできました。3年目は、対象をサードプレイスに設定し、キャリアコンサルタントとの協働モデルの構築を行いました。



【事業の紹介】

1. 実施先の募集・選定

実施先のサードプレイスを募集しました。審査の結果、大阪市内2カ所のフリースクールを実施先として選定しました。

2. フリースクールへのインタビュー

子どもたちの様子や各フリースクールの思い、プログラムに期待すること等をインタビューしました。また、実施場所や必要物品、IT環境等の確認も行いました。

3. プログラム開発

インタビュー結果をふまえ、フリースクールに通う子どもたちに合わせてプログラム内容等を改善しました。

4. 「サードプレイスとの協働ガイドライン」作成

サードプレイスとの協働を進める際のポイントや手順を「協働ガイドライン」としてまとめることで、プログラムを円滑に導入し、効果的に進められるようにしました。

5. プログラム実践（計20名の子ども対象）

キャリアコンサルタントの団体（NPO法人 xTReeE）と連携してプログラムを実践しました。

（1）フリースクール ろーたす 2024年12月9日 ◆対象：小中学生9名

（2）フリースクール ここ（淡路校） 2024年12月13日 ◆対象：小中学生11名

6. 実施結果の分析

アンケート結果をふまえた効果検証を行い、今後の改善点を検討しました。

【事業実施の成果】

下記のアンケート結果等をふまえると、プログラムの目標は一定達成できたと考えます。今後、子どもたちがより考えやすく取り組みやすくなる工夫を検討していきます。

1. 参加した児童生徒の声

- ・話しやすかったです。
- ・自分のことを知ろうとしてくれたのが嬉しかった。
- ・今まで知れなかった自分を知れた。
- ・自分じゃわからないことがわかって自信が持てるようになりました。

2. 実施先フリースクールの職員のアンケート結果・声

①目標の達成状況

プログラムの3つの目標（A～C）すべてについて、両フリースクールとも「とても効果があった」または「まあ効果があった」との回答をいただきました。

- A「自分らしさ」についての考えを深める
 - B「自分らしさ」についての見方を広げる
 - C 自他の「よさ」を見つけるまなざしを身につける

②職員の声

- ・すべてが子どもたちにとっては、初めて、新鮮な体験だったと思います。初対面の人と話すこと、Zoom越しに話をする、自分と向き合うこと、自分のいいところを書き起こすこと等、**普段の活動ではできないことに挑戦するきっかけができたのがとても良かったです！**
- ・初対面の人に対して、話をするということが苦手な生徒が多く、会話が成立するのか、沈黙が生まれないかなどと大人側は心配と不安でいっぱいでしたが、始まってみると「自分だけが話す場、自分が話さないと会話が進まない」という空間で、やらなければいけないとなると**意外とできる**という子どもたちの姿を見ることができ、嬉しくなりました！
- ・プログラムの中で、子どもたちがちゃんと話をするができるのか、少し不安に思うところもありました。しかし、みなさんが、子どもたちを肯定しながら明るく話を聞いてくださったことで、**子どもたちが楽しそうに話をしている様子**を見ることができました。特に、キャリアコンサルタントの方々との面談を終えて帰ってきた**子どもたちの顔がとても明るかったの**を見て、「いい時間が過ごせたんだな」と感じました。

【今後の展望と課題】

1. プログラム内容の改善

「言語化」や「シート記入」に抵抗を感じる子どもが多く、集中力の持続が難しい様子が見られたため、今後ゲームの要素を取り入れるなど言語化に頼りすぎないプログラム内容を検討予定です。

2. 後続プログラムの検討

今回のような「現在の自分」を知るプログラムだけでなく、「未来の自分」を考えるプログラムへのニーズがあることがわかったため、今後、現在と未来をつなぐプログラムを検討予定です。

3. 活動財源の確保

プログラムの普及発展のために、今後の事業予算の確保が必要となります。多くのフリースクールが財政面に課題を抱える状況の中、各団体の事業予算に位置付けるのは難しいと思われるため、フリースクール対象の助成金をはじめ、多様な財源の確保に向けて働きかけていきます。

1人1人の成長の場所！ろーたすフリースクール事業！

NPO 法人ろーたす

事業HP等のURL：<https://lotus20190401.work/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

1.不登校・苦登校の児童生徒は、本来学校教育により育まれるはずの力が身に付かないというデメリットを軽減する。

→活動の中で自己肯定感を養い、コミュニティの中で社会参画への力を身に付け、自立した個人へと成長していくための力を育む。

2.保護者の心身への負担に起因する家庭のQOL低下の緩和。

→親の会・日常的に行う個別対応を中心とした保護者への心身のケアより各世帯のQOLの向上を目指し、よりよい養育環境が家庭内で創られるようアプローチしていく。



【事業の紹介】

～事業概要～

不登校・苦登校の児童生徒に向けた、学習機会の確保・自己実現の場の提供・サードプレイスの提供を目的として、フリースクール運営を行う。社会参画・進路獲得・自立に向けた力を養うことを目標とする。

また、不登校・苦登校の子どもを持つ保護者を含む、子育てに悩む保護者の方々にも様々な角度からアプローチして参りたい。

～フリースクール開設日時～

・開設時間 月～金曜日 10時～17時（17時～18時は振り返り）

※土曜日は月2回程度行事開催

～開催場所～

教室内（教室ろーたす・教室おれんじ）

～利用人数/日～

20人 ※2024年3月時点

【事業実施の成果】

☆子ども達に多方面から教育を提供しながら、周囲を巻き込むことができました。

- ・ 沢山の体験活動や行事で、多様な教育環境の提供できました。
- ・ 居場所事業をはじめ各事業との連携でバックボーンに関わらず、子ども達同士が関わることができました。
- ・ スモールステップ支援表や親の会、日々の関わりの中で保護者と人間関係を築けました。
- ・ 親の会の名前を『スナックろーたす』と保護者が命名。参加人数増、懇親会や親子遠足を開催することができました。
- ・ スタッフが固定化でき、組織として動けるようになってきました。
- ・ 運動会、『ろーたすワンダーラスト（表現教育のWS）は100人規模で開催することができたり、お餅つきには地域の方々や他団体も参加されました。
- ・ 地域との繋がりが強固になっており、認知度が向上していると感じます。
- ・ 教員向けの学校研修や中学校・高校でのキャリア教育を担当させて頂きました。

☆外部との連携・協働

- ・ 他団体と協働で様々なイベントを開催できました。更にそのイベントにおいて、後援を教育委員会・社会福祉協議会から頂くことができました。
- ・ 学校や各機関と子どもについての協議・面談・ケース会議を行い、各ステークホルダー同士で足並みをそろえ、子ども達へのより良いサポートに活かすことができました。

☆運営体制の整備

- ・ 事務局長、会計担当のスタッフを配置し、バックヤードが安定しました。
- ・ スタッフへの研修を充実させることができました。

【今後の展望と課題】

～展望～

- ・ 通信制高校とサポート校としての連携を図り、高校生への充実した支援に努めていきます。
- ・ 2025年度終了時には常勤スタッフ5名、非常勤スタッフ2名で運営できるよう（現在は常勤スタッフ3名、非常勤スタッフ3名。）体制を整備致します。
- ・ マンスリーサポーター200名、企業スポンサー15社を目指し、運営資金の充実に努める。
- ・ 法人内に多様性を担保し、住吉区の中で『無くてはならない団体』として信頼頂けるよう、日々の事業運営に努めて参ります。
- ・ 摂南大学の前学長をアドバイザーに迎え新たな教育カリキュラムの提供を実施し、教育の質の向上に努めます。
- ・ フリースクールのイメージを変革し『不登校の子ども達が仕方なく行く場所』から、名実ともに『新たな教育の選択肢』となれるよう、アップデート致します。

ネグレクト児童およびヤングケアラーへの寄り添いサポート事業

Minami こども教室

事業HP等のURL：<https://minami-kodomo.org/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

Minami こども教室は、2013 年から大阪市中央区において、外国につながる子どもたちを対象に、学習支援を通したきめ細やかな見守り活動をめざしています。社会・経済・文化的な背景から「しんどさ」を抱える多くの子どもたちと出会い、中にはネグレクト児童に該当する虐待ケースや、ヤングケアラーとして家庭を支える子どもたちのケースに対応してきました。

本事業は、これまでの子どもの見守り活動から、ネグレクト等の事案の早期発見に努めるため、区内の子ども支援団体および事業所との連携をより深め、当団体内の相談機能を強化することを目的としました。ニーズの高い子どもへの円滑な対応と、子どもたちに寄り添うための持続的な支援をめざしました。また、子どもの SOS をキャッチするための相談窓口と SNS 相談を通し、相談体制を充実させ、広報活動を通した子どもサポートのすそ野拡大化に向け、社会啓発を強化に努めることにも努めました。子ども自身の自尊感情を育み、虐待等から自分自身を守るための「生きる力」を支えるキャリア支援や社会体験活動の充実にも注力しました。

【事業の紹介】

1. 相談窓口の開設（4 月～3 月）

(1) 子どもたちと保護者を対象とする相談窓口

Minami こども教室、子ども食堂しま☆ルームの開催に合わせた相談窓口を、道仁連合会館、中央区子ども・子育てプラザにて開設（毎週火曜日・水曜日 17:00～20:00）し、子ども・若者たちの悩みや困りごとを聞き取りました。

(2) SNS・電話相談窓口を開設

LINE ビジネスの機能を利用して、「Minami こどもケア LINE」の名称で相談窓口を開設しました。受付時間は月・水・金の 14:00～22:00 に設定し、市内の小中学校にチラシの配布とポスターの掲示を依頼し、寄せられた相談に応じました。

2. 同行支援、学校・家庭訪問の実施ケース共有会議の開催

窓口での相談内容に応じて、適宜同行支援や家庭訪問を行いました。また、どのような支援が必要かを相談員や学校・地域支援者・行政の担当者と話し合う「ケース共有会議」を中央区子ども・子育てプラザで年間 10 回開催しました。

3. レスパイトとしての社会体験活動

子どもたちの体験格差解消とレスパイトケアを目的として、休日や学校の長期休み等に各種体験活動を行いました。Minami こども教室独自の活動に子ども支援を行なう他団体の事業への参加も含め、継続して幅広い体験ができるようサポートしました。今年度はのべ 450 名が参加しました。

【事業実施の成果】

1. 相談窓口での相談件数：218 件／年

来日して日の浅い移住者家族に対しては必要に応じて通訳者・翻訳者を配し、生活や学校についての不安を詳細に聞き取ることに努めました。相談内容はケース記録に適切に記載し、必要に応じて学校や専門機関と連携を取り、問題解決を目指しました。

2. そのうち子どもからの相談件数：67 件／年

3. 学校訪問・家庭訪問等の同行支援：25 件／年

今年度は同行支援よりも電話や S N S 相談が増えました。市役所や病院などから相談員に電話がかかってくることも多々ありました。

4. ケース共有会議の実施：10 回／年

12 月および 2 月は参加者らの都合により開催できなかった。

5. 本事業に関するシンポジウムの開催

約 80 名（2024 年 12 月 2 日@和歌山大学）、約 15 名（2025 年 2 月 4 日@OFIX）、約 50 名（2025 年 3 月 6 日@北御堂）合計約 145 名

6. レスパイトとしての社会体験活動：のべ 450 名

毎月の JEO こども食堂への参加（217 名）や、5 月の企業とコラボで行ったオンライン授業（22 名）、7～8 月の夏休み企画（のべ 82 名）、8 月盆踊り大会（54 名）、8 月のホテルが企画したこども食堂への引率（31 名）、11 月の若者の集い（12 名）、3 月の中之島美術館・絵本の森への遠足（32 名）に、のべ 450 名が参加しました。



【今後の展望と課題】

事業開始より 3 年間、毎週の相談窓口を稼働させ、地域でも定着してきたと感じています。ただし、多方面からの支援が必要であり長期化する案件が多く、問題の根本的な解決のための支援ネットワークの強化は常に課題となっています。本事業については対象を中央区に限定してこなかったが、中央区外の相談を受けた際、実際に同行支援をしたり、相談を聞いたりするのは難しいこともありました。今後も広くネグレクト児童やヤングケアラーという状況に置かれている子どもたちに繋がれるよう、広報を充実させるとともに、他団体と連携するなどして、継続的な支援を考えていきたいと考えています。また、相談が長期化するケースがあり、相談員の心的負担が増加していることも危惧しています。スーパーバイザー制度を取り入れるなど、より適切な対応ができるよう心掛けていきたいと思います。本助成金は最終年度だったので、財政面では厳しくなるが、今後もできる範囲で相談窓口を継続させていきたいです。活動を継続することによって子どもたちからの信頼が得られると考えています。事業の広報方法については、中央区外の人にも利用してもらえるよう今後も工夫していきたいです。